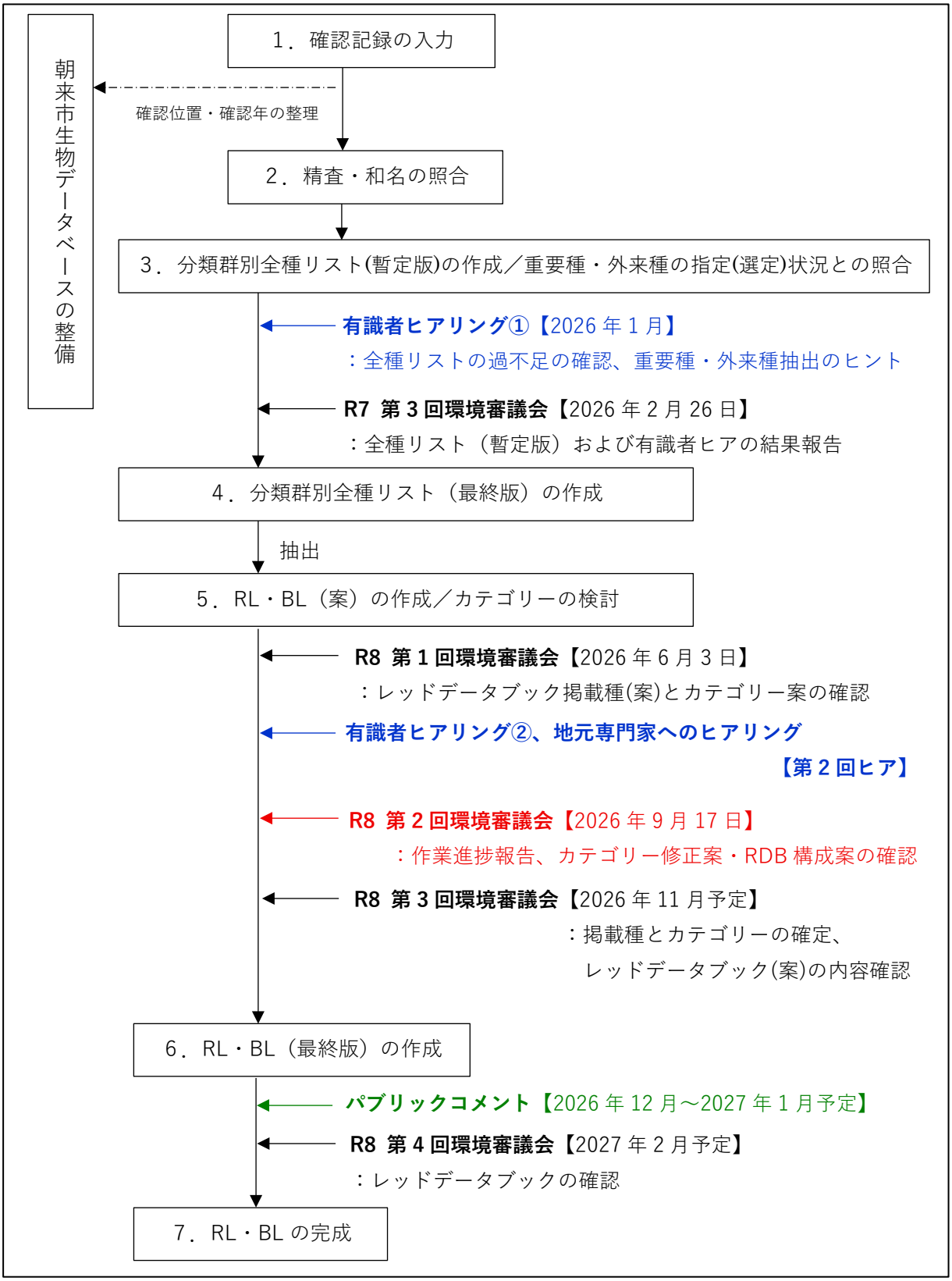
資料２

朝来市レッドリスト・ブラックリストの作成進捗・構成（案）

１．朝来市レッドリスト・ブラックリスト[注1]の作成フロー



注１　「レッドリスト」、「ブラックリスト」の呼称は現時点では暫定的に使用しており、正式な呼称は今後検討し確定する。

注２　レッドデータブックには、レッドリスト・ブラックリストの両方を掲載する予定である。

２．第２回ヒアリングの目的

第 2 回のヒアリングでは、第１回ヒアリングを実施した有識者と朝来市内で活動されている地元の研究者を対象に、レッド・ブラックリストのカテゴリー案および抽出手順の妥当性と、レッド・ブラックリスト一次候補種に関する意見を伺った。

特に地元の研究者に対しては、朝来市域における生物相を踏まえた候補種の追加・削除について意見を伺った。

【参考】ヒアリング時に提示したカテゴリー案

◆ レッドリストカテゴリー案

カテゴリー(案)	定　義
大切にしたい種	兵庫県版レッドリストの A、B、C に相当。過去 30 年以内において、朝来市内で確実な確認記録がある種のうち、絶滅のおそれがある種や存続基盤がぜい弱な種。
注目したい種	兵庫県版レッドリストの要注目に相当。過去 30 年以内において、朝来市内で確実な確認記録がある種のうち、優れた自然環境の指標となる種や近年減少が著しいなど、分布に変化があって動向が注目される種。
探したい種	兵庫県版レッドリストの要調査に相当。過去 30 年以内の確実な朝来市での確認記録がなく、今は見つけることが困難になった種や、生息の実態がほとんど分からないなどの理由で現在のところ貴重性の評価ができないが、今後の調査によっては貴重種となる可能性のある種。

◆ ブラックリストカテゴリー案

カテゴリー(案)	定義
対策検討種	兵庫県版ブラックリストの Z(警戒種)、Y(注意種)に相当。生物多様性への影響が大きい、または今後影響が大きくなることが予測され、早期に対策を講じる必要がある種。
要警戒種	兵庫県版ブラックリスト掲載種（県内に既に侵入・定着している外来種）のうち、朝来市内での侵入・定着はまだ確認されていないものの、侵入・定着すれば生物多様性に大きな影響を与えることが予測され、早期に対策を講じる必要がある種。

3．第２回ヒアリングの対象者・実施状況

第２回ヒアリングの対象とした有識者および地元の研究者は以下のとおり。

区分	専門	氏名（所属）	実施方法・実施日等
有識者	哺乳類	栗山　武夫 氏（兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 准教授／兵庫県森林動物研究センター 主任研究員）	ヒアリングシートでの実施（回答済）
	鳥類	布野　隆之 氏（兵庫県立大学大学院 地域資源マネジメント研究科 エコ研究領域 准教授／兵庫県立コウノトリの郷公園 研究員）	ヒアリングシートでの実施（回答済）
	爬虫類・両生類	岡田　純 氏（NPO 法人日本ハンザキ研究所 理事長）	ヒアリングシートでの実施（回答済）
	昆虫類	八木　剛 氏（兵庫県立人と自然の博物館　事業推進部長）	対面での実施（2026/7/29 実施）
	魚類	三橋　弘宗 氏（兵庫県立人と自然の博物館 自然・環境マネジメント研究部門 主任研究員／兵庫県立大学 自然・環境科学研究所）	ヒアリングシートでの実施（2026/9/3 時点で未回答）
	貝類	高田　良二 氏（西宮市貝類館 学芸員）[注3]	対面での実施（2026/6/29 実施）
	植物	石田　弘明 氏（兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 教授／兵庫県立人と自然の博物館 副館長）	ヒアリングシートでの実施（回答済）
地元の研究者	鳥類	増田　克也 氏（兵庫県立南但馬自然学校 職員）	ヒアリングシートでの実施（回答済）
	昆虫類	近藤　伸一 氏	ヒアリングシートでの実施（回答済）
	植物	西垣　志郎 氏（ひょうごエコ市民ネットワーク / 元南但馬の自然を考える会）	ヒアリングシートでの実施（2026/9/3 時点で未回答）

注 3）貝類に関する有識者ヒアリングは今回が初めてとなるため、高田氏には第 1 回・第 2 回のヒアリングを合わせて実施した。

４．第２回ヒアリングの結果概要

各ヒアリング結果の概要は以下のとおり。なお、ヒアリングシート形式で実施したヒアリングについては、8 月 31 日時点で回答のあった結果のみ記載した。

《有識者》

１）栗山　武夫 氏（兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 准教授／兵庫県森林動物研究センター 主任研究員）

- 抽出手順について追記検討されたい。2000 年代以降から 2026 年までに、など期間を具体的に明記したほうが、曖昧さが軽減されて良い。
- 一次候補種については、現状で特に問題ない。
- レッドリストにおけるツキノワグマの確認年代について、2010 年代、2020 年代が空欄となっているが、出没情報があるはずなので再確認すること。
- ヌートリア・アライグマ・ハクビシンの確認年代についても、現状のリストより確認年代は多いはずである。再確認すること。

２）布野　隆之 氏（兵庫県立大学大学院 地域資源マネジメント研究科 エコ研究領域 准教授／兵庫県立コウノトリの郷公園 研究員）

- 一次候補種には、海浜地域を主要な生息地とする鳥類や旅鳥（日本国内に稀に飛来する著類)、鳥の渡りの時期に偶発的に朝来市内を通過したと考えらえる鳥類が含まれている。
- 朝来市内で記録された鳥類を網羅する必要はなく、朝来市内の鳥類相を反映した種の選定が適切である。地元の研究者の意見などを参考にリストを再考すること。

３）岡田　純 氏（NPO 法人日本ハンザキ研究所 理事長）

- 市域の規模や、現時点で蓄積されている生物の記録・情報を考えると、兵庫県版レッドリスト・ブラックリストを基本としてカテゴリーを設定する現在の考え方は妥当と考える。
- 県全体では見えにくい地域的な重要性や、良好な生息地が残されていること、反対に市内では生息地が限定されていることなどを示すことが、地域版を作成する意義である。
- 選定された一次候補種について、違和感や除外したほうが良い種はない。ただし、ハコネサンショウウオとタカチホヘビはつい最新の分布情報からランク等を再考されるとよい。
- 両生類ブラックリストについて、チュウゴクオオサンショウウオ（広義）及びオオサンショウウオ交雑個体を「要警戒種」としていることは、在来のオオサンショウウオが生息する朝来市において特に重要である。

４）八木　剛 氏（兵庫県立人と自然の博物館　事業推進部長）

- 市の生物多様性地域戦略を使って住民にいかに還元していくかを考えたときに、学術的なレッドリストを見てもわけがわからない。例えば、一次候補種の「探したい種」は、かなりマニアックな種が含まれており、一般の市民は探せない。
- レッド・ブラックリストの作成と並行し、別途、市民が身近な生きものに目を向ける取組からスタートした方が良く、市民が身近に感じられるターゲット種を設定できると良い。
- 希少種や絶滅危惧種は、定期的にモニタリングをしている有識者が各種の希少性を判断す

ることで作られるが、朝来市で生きものをモニタリングしている人は少ない。30 年間記録のない「探したい種」に該当する種は、存在していないのではなく、誰も調査していないだけであると考えられる。調査を行えば発見されるだろう。

- 環境省のレッドリストにのみ掲載されている種については、多くは追加する必要はないが、ヤマトオサムシダマシなど一部追加が望ましい種もいる。
- ブラックリストの掲載種はクビアカツヤカミキリだけで良いだろう。他の種は侵入の恐れが少ないものや、侵入しても問題のない種である。
- 外来種対策の政策は環境省が力を入れているため、全く無視するのもよくないが、（国や県が実施しているので）あえて強く強調する必要はない。それよりも、身の回りの生きものに温かいまなざしを注ぐことを施策にぜひ取り込んでほしい。

5）高田　良二 氏（西宮市貝類館 学芸員）

- 朝来市は森林が約 84%ある。特に糸井渓谷、黒川渓谷のような原生林や広葉樹が多く残る環境が重要である。
- 古くから広葉樹林が残っている鎮守の森は、カタツムリの生息環境として重要である。鎮守の森は鳥が頻繁に利用するため、鳥の糞のはたらきによってカタツムリの餌となる地衣類などが豊富にある良好な生息環境が形成される。これにより、鎮守の森には多くの種のカタツムリが生息している。朝来市は人工林が多いため、鎮守の森がカタツムリのオアシスのような役割を果たしている。
- 一番の脅威は人間の開発である。緑地公園などは緑があってもカタツムリは住めない。
- マルタニシやヒメタニシがどんどん減っている。田んぼの構造が変わり、冬場に水が干上がり、越冬できなくなったためである。
- 一次候補種の選定種については、特に違和感はない。
- 環境省レッドリストのみに該当するオオタニシは、環境が揃えば水田やため池で普通にみられるので、朝来市のレッドリストに入れる必要はないだろう。
- レッドリスト、ブラックリストのカテゴリーは、市民にも分かりやすい優しい表現で良いと思う。

6）石田　弘明 氏（兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 教授／兵庫県立人と自然の博物館 副館長）

- 「探したい種」が兵庫県版レッドリストの要調査に相当する種となっているが、正しくは「兵庫県版レッドリストの A、B、C に該当するが、過去 30 年以内の確実な朝来市での確認記録がない種」ではないか。
- 兵庫県版レッドリストの要調査に相当する種は今回のレッドリストの対象から除外した方がよい。
- レッドリストのカテゴリーの順番は、①大切にしたい種、②探したい種、③注目したい種という順番がよい。
- 環境省レッドリストに記載されている種は、いずれ兵庫県でも絶滅危惧種に指定される可能性があり、朝来市で確認されている種については「注目したい種」に位置づけるのがよい。ただし、植栽またはその可能性が高い種（タチバナ、ヒトツバタゴ、ヒゴタイ）は対象から除外した方がよい。

・　ブラックリストの対策検討種が非常に多いため、兵庫県版ブラックリストの Y(注意種)に該当する種のうち、ニワウルシ以外の種をすべて要警戒種に変更した方がよい。

《地元研究者》

1）増田　克也 氏（兵庫県立南但馬自然学校 職員）

・　一次候補種のカテゴリー（案）の定義については、「親しみやすい表現」を用いるカテゴリーの区分は、言葉の意味が先行し、曖昧な印象があり誤解を生じかねない。国や県のランクを参考に基準に設けて、それぞれの区分に振り分けているのなら、同じような簡潔な表記で（アルファベットや数値）で表現するのが良いと思う。

・　レッドリスト一次候補種について、朝来市では観察頻度が多く、リストから除外して良い種が複数含まれているため、再考してほしい。

・　ブラックリスト一次候補種については、現状（ソウシチョウとハッカチョウの２種）で良いだろう。

2）近藤　伸一 氏

・　カテゴリー案については、これで良いと思う。

・　チョウ類の一次候補種について、兵庫県版レッドリストから以下の２種が抜けているため、追加が必要。

- ダイミョウセセリ　要注目　（２０２３年　朝来市内で確認）
- ウスバシロチョウ　要注目　（２０２３年　朝来市内で確認）

5．朝来市レッドリスト・ブラックリストのカテゴリー修正案

◆ レッドリストカテゴリー修正案

カテゴリー(案)	定　義
大切にしたい種	絶滅のおそれがある種や存続基盤がぜい弱な種（兵庫県版レッドリストのA、B、C に相当）のうち、1990 年代以降※において朝来市内で確実な確認記録がある種。
探したい種	絶滅のおそれがある種や存続基盤がぜい弱な種（兵庫県版レッドリストのA、B、C に相当）のうち、1990 年代以降※おいて朝来市で確実な確認記録がなく、今では見つけることが困難になった種。
注目したい種	優れた自然環境の指標となる種や近年減少が著しいなどの動向が注目される種（兵庫県版レッドリストの要注目に相当）のうち、1990 年代以降※において朝来市内で確実な確認記録がある種。

※：「過去 30 年以内」という表記から修正した。

◆ ブラックリストカテゴリー修正案

カテゴリー(案)	定義
対策検討種	生物多様性への影響が大きい、または今後影響が大きくなることが予測される種（兵庫県版ブラックリストの Z(警戒種)に相当）のうち、すでに朝来市内における定着が確実であり、早期に対策を講じる必要がある種。
要警戒種	生物多様性への影響が大きい、または今後影響が大きくなることが予測される種（兵庫県版ブラックリストの Z(警戒種)に相当）のうち、朝来市内における侵入・定着はまだ確認されていないものの、侵入・定着の予防に向けて警戒が必要な種。

6．朝来市レッドデータブックの構成案

見出し	概要
はじめに	朝来市長からのメッセージ
朝来市レッドリスト・ブラックリストとは？	概要、作成の背景・目的、対象とする分類群
朝来市レッドリスト	
選定方法とカテゴリーについて	収集情報、抽出手順、カテゴリーの説明
選定の結果	分類群別・カテゴリー別の選定種数
各分類群の選定種について	
1） 哺乳類	選定種の概要、選定種一覧
2） 鳥類	選定種の概要、選定種一覧
3） 爬虫類	選定種の概要、選定種一覧
4） 両生類	選定種の概要、選定種一覧
5） 淡水魚類	選定種の概要、選定種一覧
6） 陸産・淡水産貝類	選定種の概要、選定種一覧
7） 昆虫類	選定種の概要、選定種一覧
8） 維管束植物	選定種の概要、選定種一覧
保全のための市の取組み	
市民の皆様にお願いしたいこと	
朝来市ブラックリスト	
外来種とは	外来種の定義、侵略的外来種、外来種の問題
選定方法とカテゴリーについて	収集情報、抽出手順、カテゴリーの説明
選定の結果	分類群別・カテゴリー別の選定種数
各分類群の選定種について	
1） 哺乳類	選定種の概要、選定種一覧
2） 鳥類	選定種の概要、選定種一覧
3） 爬虫類	選定種の概要、選定種一覧
4） 両生類	選定種の概要、選定種一覧
5） 淡水魚類	選定種の概要、選定種一覧
6） 陸産・淡水産貝類	選定種の概要、選定種一覧
7） 昆虫類	選定種の概要、選定種一覧
8） 維管束植物	選定種の概要、選定種一覧
外来種防除のための朝来市の取組み	
市民の皆様にお願いしたいこと	
収集した資料の一覧	
索引	
レッドリスト掲載種の索引	
ブラックリスト掲載種の索引	